

## 「目からうろこのようなものが落ちた」

2024年02月02日

そこで、アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて言った。「兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、聖霊で満たされるようにと、私をお遣わしになったのです。」すると、たちまち目からうろこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。そこで、身を起こして洗礼を受け、食事をして元気を取り戻した。(使徒9:17～19a)

サウロは、復活したイエスに出会い、「私はあなたが迫害しているイエスである。立ち上がって町に入れ。そうすれば、あなたのなすべきことが告げられる」と言われた。地面から起き上がって、目を開けたが、何も見えなかった。同行者たちに手を引かれてダマスコに入った。彼は三日間、目が見えず、食べることも飲むこともできなかった。

このダマスコの町にアナニアという弟子がいた。彼は幻の中で「アナニア」と呼びかけられた声を聞き、「主よ、ここにおります」と答えた。すると、主は「立って『まっすぐ』と呼ばれる通りへ行き、ユダの家にいるサウロという名の、タルソス出身の者を訪ねよ。彼は今祈っている。アナニアという人が入って来て自分の上に手を置き、元どおり目が見えるようにしてくれるのを、幻で見たのだ」と言われた。しかし、アナニアは「主よ、私は、その男がエルサレムで、あなたの聖なる者たちに対してどんな悪事を働いたか、大勢の人から聞きました。ここでも、御名を呼び求める人をすべて縛り上げる権限を、祭司長から受けています」と答えた。サウロのエルサレム教会と信者たちに対する激しい迫害は、ダマスコまで聞こえていた。また、ダマスコまで出向いて、信者たちを縛り上げ、エルサレムに連行する権限を祭司長から受けている。アナニアは、そんな恐ろしいサウロの所には行けませんと断っている。断るのは当然であろう。すると主は、「行け、あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らの前に私の名を運ぶために、私が選んだ器である。私の名のためにどんなに苦しまなくてはならないかを、彼に知らせよう」と言われた。訪ねることを恐れるアナニアに「行け」と命じた。そして、サウロは異邦人やイスラエルの子らに主の名、福音を宣教するために選んだ器である。彼に、主の名のために苦しい生涯を送るようになることを知らせようと、後のパウロの宣教における苦難を予告している。

アナニアは勇気を奮い起こして出かけ、ユダの家に入り、サウロと出会った。サウロは目が見えず、食事もできない状態で、悄然としていたであろう。アナニアはサウロの頭の上に手を置いて、「兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、聖霊で満たされるようにと、私をお遣わしになったのです」と言った。すると、たちまちサウロの目からうろこのようなものが落ち、元どおり見えるようになった。サウロは身を起こして洗礼を受け、食事をして元気を取り戻した。ここで、重要なことが起こっている。アナニアはサウロにキリストの福音を語り、サウロはそれを信じ、受け入れた。目からうろこのようなものが落ちたということは、目が開かれたこと、律法に従う人間の努力によって救われるという生き方から、キリストの十字架と復活によって罪が赦され、神に是認された安心と喜びへの転換であろう。パウロが告げ知らせる福音は人からではなく、キリストの啓示によるものであることは真実である。パウロの回心において、アナニアの働きは大きく、記憶されるべきではないか。